

科目区分	専門分野	科目名	共通基本技術 I (環境と安全)	対象学生	第 1 学年
		単位数(時間数)	1 単位 (30 時間)	学 期	第 1 学期
担当講師	市川 真理子、大倉 令			実務経験	有
科目目標	看護に必要な基本技術の概念を理解し、環境調整と安全確保の基本的技術を習得する。				
授業計画	<p>環境：20H</p> <p>第 1 回 看護技術とは (講義)</p> <p>1. 看護技術の特徴 2. 看護技術の範囲</p> <p>3. 看護技術を適切に実施するための要素</p> <p>第 2 回 療養生活における快適な環境条件 1</p> <p>1. 環境の概念 2. 療養生活と環境</p> <p>3. 療養環境の空間</p> <p>第 3 回 療養生活における快適な環境条件 2</p> <p>1. 環境条件について (講義)</p> <p>第 4 回 ベッドメイキング 1 (講義)</p> <p>1. ベッドメイキングの目的</p> <p>2. ベッドメイキングの種類と特徴</p> <p>3. 作業域の調整と動作</p> <p>4. リネン類のたたみ方 (演習)</p> <p>第 5 回 ベッドメイキング 2 (演習)</p> <p>1. クローズドベッドの作成方法</p> <p>1) 下シーツの敷き方、三角コーナーの作成</p> <p>2) 防水シーツの敷き方</p> <p>3) 横シーツの敷き方</p> <p>第 6 回 ベッドメイキング 3 (演習)</p> <p>1. クローズドベッドの作成方法</p> <p>2. オープンベッドの作成方法</p> <p>第 7 回 臥床患者のリネン交換 (演習)</p> <p>第 8 回 療養環境整備 3 (講義)</p> <p>1. 環境整備の目的</p> <p>2. 環境整備の必要物品</p> <p>3. 手順と根拠・留意事項</p> <p>第 9 回 療養環境整備 4 (演習)</p> <p>環境整備の実際</p>		<p>安全：10H</p> <p>第 10 回 感染予防 1 (講義)</p> <p>1. 感染予防の基礎知識</p> <p>2. 標準予防策</p> <p>1) 衛生学的手洗いの方法</p> <p>2) 個人防護具(マスク・エプロン)の方法</p> <p>第 11 回 感染予防 2 (講義)</p> <p>1. 感染経路別感染予防策</p> <p>1) 空気感染 2) 飛沫感染 3) 接触感染</p> <p>2. 感染性医療廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 洗浄・消毒・滅菌法</p> <p>第 12 回 感染予防 3 (講義)</p> <p>1. 滅菌物の取り扱い(無菌操作)</p> <p>1) 滅菌包みの開け方</p> <p>2) 滅菌物の取り出し方</p> <p>3) 鉗子・鑷子の取り扱い</p> <p>4) 綿球の取り扱い</p> <p>5) 滅菌手袋の着用方法</p> <p>第 13 回 感染予防 4 (演習)</p> <p>1. 流水による手洗い</p> <p>2. 衛生的手洗い</p> <p>3. 未滅菌手袋・滅菌手袋の着脱</p> <p>4. ディスポーザブルエプロンの装着</p> <p>5. 滅菌鑷子の取り出し</p> <p>6. 消毒綿球の受け渡し</p> <p>第 14 回 安全確保の基礎知識 (講義)</p> <p>1. 安全の意義と目的</p> <p>2. 医療安全に関する重要な概念</p> <p>3. 医療事故の種類</p> <p>4. 安全を阻害する危険因子</p> <p>5. 医療事故の現状 6. 事故防止対策</p> <p>第 15 回 終了試験</p>		
評価方法	筆記試験 (70%)、演習への参加状況 (30%) で総合的に評価、技術チェック有				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス第 4 版 学研				
講師からのメッセージ	形態機能 I、日常生活援助技術 I (活動・休息)、物理学 (ボディメカニクス)などを想起し、科学的・理論的裏づけをする。看護技術の基本となる理論(看護学概論、看護理論)を想起し、看護技術の基本原則を理解する。原理原則に基づき校内実習を展開する。根拠を明確にし、確かな知識に裏づけられた技術が実施できるよう取り組む。 技術練習を行い、主体的に指導を受ける。国家訴権出題基準を確認し学習すること。				